

雪氷写真館⑨ JARE54 南極内陸旅行 /
Inland Traverse of 54th Japanese Antarctic Research
Expedition



写真 1 アイスレーダー (179 MHz) を設置した雪上車 SM116. ドームふじ基地の南 5 km の地点で撮影.

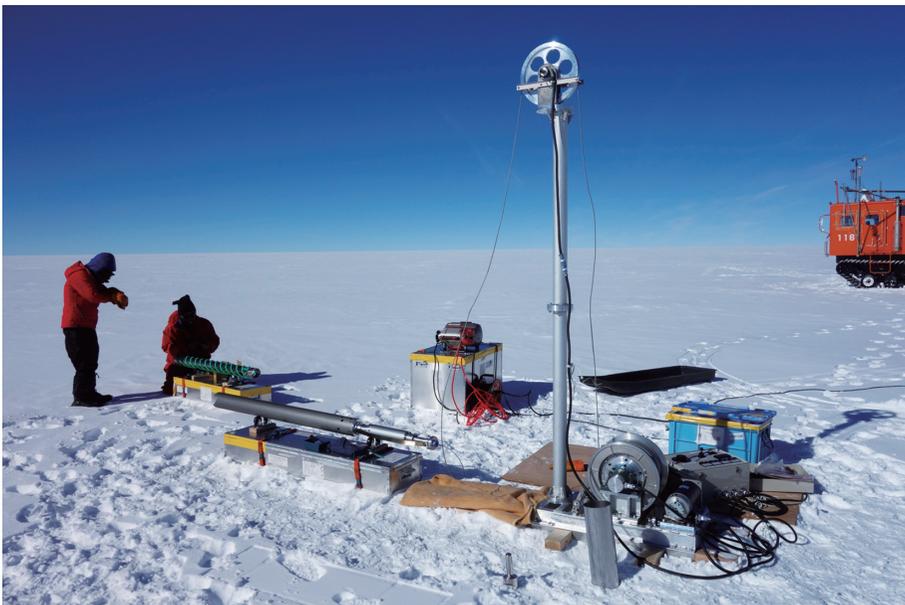


写真 2 新ドームふじ基地候補地で行った浅層掘削. 掘削深度は 30 m.



写真 3 S122 付近 (標高 1880 m) の雪面に見られた長さ 15 cm の気泡氷。

JARE54 南極内陸旅行

第 54 次日本南極地域観測隊の内陸旅行隊 (雪氷班) は 2012 年 11 月 23 日に S16 地点を出発, 途中, ドームふじ基地, 新ドームふじ基地候補地, プラトー基地 (米国) を経由して, 同年 12 月 29 日に最南端の南緯 80° 00′ 東経 40° 30′ 地点に到達, 翌年 2 月上旬に S16 地点に帰還した。メンバーは観測系隊員 5 名に設営系隊員 1 名の合計 6 名である。

主な観測は, 新ドームふじ基地候補地周辺でのアイスレーダー (179 MHz) による岩盤地形探査 (写真 1), 新ドームふじ基地候補地など 3 地点での浅層コア掘削 (写真 2) である。観測期間中は天候に恵まれ, 観測は無事成功することができた。

今回の旅行中, 標高 1880 m の S122 地点では, 雪面の一部が融解・再凍結してできたと考えられる気泡氷がみられた (写真 3)。これまで標高 2000 m 近い南極内陸で, 積雪表面が融解したという報告はほとんどなく, 南極内陸でも一部の地域では, 夏の気温が上昇傾向にあるのかもしれない。

福井幸太郎 (立山カルデラ砂防博物館)

本山秀明・大野 浩 (国立極地研究所)

鈴木利孝 (山形大学理学部地球環境学科)

保科 優 (名古屋大学大学院環境学研究所)